

東北労働金庫「ろうきん地域貢献ファンド」 2006年度
Aコース（協働企画&パワーアップ企画助成コース） 助成事業報告書

2007年 7月 30日

団体名(ふりがな)みやぎいのちと人権リソースセンター(みやぎいのちじんけんリソースセンター)
事業名 おたすけボランティア「あなたの知恵と力を社会に生かそう!」プロジェクト
連絡担当者お名前(ふりがな) 小林 純子 (こばやし じゅんこ)
担当者 電話 022-279-7210 F A X 022-279-7210 E-Mail c.l.miyagi@viola.ocn.ne.jp
<p>助成金を使って行った事業について、記述してください。 (活動の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)</p> <p>(1)募集 一般・企業・学校などに広報。(チラシは「資料」参照) (2)オリエンテーション開催 3月4日(日)13:30~16:00 みやぎいのちと人権リソースセンター 内容 講師 小林純子 事業についての説明 みやぎいのちと人権リソースセンターの概要紹介 団体の紹介 CAP みやぎ 東北 HIV コミュニケーションズ 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク ここねっと発達支援センター キャブネットみやぎ ハーティ仙台 参加者自己紹介 次回までの課題としてパンフレット収集をしてくることを指示</p> <p>(3)学習会およびワークショップ 会場はすべて「みやぎいのちと人権リソースセンター」 3月18日(日)13:30~16:00 ワークショップ 講師 小林純子 集めたチラシをもとに、多様なNPO・ボランティア活動を知り、自分たちが取り組みたい問題を絞り込んだ 子どもの問題・女性の自立・安全など 3月25日(日)13:30~16:00 学習会 講師 八幡悦子 子どもと女性の問題に取り組んでいる講師を招き、現在の実情と課題を学習した 4月15日(日)13:30~16:00 ワークショップ 講師 米倉正子 自分たちが取り組みたい課題を実現するためには何が必要かをワークシートを使って作業し、広報ツールなどの作成を行った。</p>

助成金を使って行った事業について、記述してください。(続き)

4月21日(土) 13:30~16:00

前は各自それぞれのツールを作成したが、この事業として、どのような内容のものを、いつ広報するかを相談。子どもに「自信をもっていい、ありのままの自分でいい、こまったときは相談しよう」ということを伝えるためにカードを作ることになった。配布は、5月5日に泉中央駅前で行われる「泉子どもの日フェスティバル」会場で行うことになった。カードはスタンプラリーのカードと共用にすること、今回の事業に参加したボランティアがブースを出して広報も行うことにした。

前回語りの学習をしたいという希望があったので、参加者のひとりで語りを行なっている人の語りを聞き、蘭の花のお茶をいただいて、豊かな時間を過ごした。

ボランティアは自分達も楽しみを求めながら行なうことが大切と改めて感じさせられた。

講師 笠原静江

(4) 広報ツール作成 (「泉子どもの日フェスティバル」で配布するカード)

若いボランティアを中心にデザインを決定。印刷。

(5) 配布 5月5日 「泉子どもの日フェスティバル」会場

配布枚数 3000枚

ブース来場者 約300人

当日、初めは天候もよく、出足が好調だったが、昼ごろ大雨に見舞われ、少し客足が遠のいた。午後は再び回復して、結果的には3000枚のカードを配ることができた。

(7) NPO法人「杜の伝言板ゆるる」バスツアー受け入れ

5月26日 参加者10名

事業の予定外ではあったが、今回の当事業と目的が似ているため、バスツアーを受け入れ「みやぎいのちと人権リソースセンター」見学と、活動紹介、参加者の交流を行った。

NPO法人チャイルドラインみやぎ活動紹介

CAPみやぎ活動紹介

みやぎ緊急サポートネットワーク活動紹介

意見交換

今回の助成事業には、どのような形で、複数の団体の協働やボランティアの参加がありましたか？ 具体的に記述してください（人数、関わりの内容、参加者の感想など）

<広報> チラシ発送・配布などのボランティア
東北HIVコミュニケーションズ(参加人数3人)
CAPみやぎ(参加人数3人)
特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク(参加人数5人)
特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ(参加人数3人)

<泉子どもの日フェスティバルに関する団体との交流>

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ(参加人数38人)
特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク(参加人数2人)
特定非営利活動法人 MIYAGI 子どもネットワーク(参加人数6人)
特定非営利活動法人 麦の会(参加人数4人)
碁ボランティア(参加人数4人)
フリースクール煌(参加人数3人)
フリースクール西の平(参加人数3人)
仙台市地域活動子どもの食事栄養士会研究グループ(参加人数3人)
Hoop of Heart(参加人数12人)
会宮城学院女子大学おもちゃばこ(参加人数8人)
みやぎこどもボランティアサークルZAB(参加人数9人)
いずみ授産所フォンテーヌ(参加人数3人)
はらから福祉会工房歩歩(参加人数3人)
のびすく泉を考える会(参加人数3人)

当初の事業目的はどの程度達成できましたか

申請書に記載した事業目的

目的は概ね達成できたが、理想から言うと70%ほどの達成度。

事業の構想から検証すると、参加者の中では「かなり有意義であった」との意見が多かったが、規模や成果の面ではもう少し達成すべきものがあったと思う。

「みやぎいのちと人権リソースセンター」の存在を知ってもらうことができたのはよかった。

目的の達成度（自己評価）

1. 人数は最初20人、最終的に10人ほど残ればと思っていたが、実際には、最後まで参加した人が7人ほどだったので、予定より少し少なかった。

2. 継続して参加してほしいだったが、全部の回数参加者は半数弱であった。

3. 参加者にボランティア経験者が多く、それぞれの個性が生かされ、内容的には充実したものになった。

4. 報告書が予定通り作成できたが、配布が遅れてしまったので反響が検証できなかった。

5. ツールの作成が予定したものより簡易なものになったが、分かりやすいものになったこと、今後アレンジして使えるものになった。

6. 参加者が自ら子どもたちに多くの枚数を手渡せたことで、「やった」という実感をもってもらった。

7. 大きなイベントに参加したことで、団体のネットワークが広がった。

8. 「みやぎいのちと人権リソースセンター」の存在を知ってもらうことができた。

達成できない部分があった場合には、考えられる原因をお書きください。

1. 人数が集まらなかったのは、開催時期の問題がある。2007年3月ごろに退職の人を想定して募集を行なったが、実際に参加したのは、将来に備えてという現役の人が多かったため、3月4月は忙しい時期にあたっていた。

2. ツールの作成が予定したものより簡易なものになった原因としては、ツールについての相談をする日に、このような活動に参加するのが初めての人が多かったため、なかなかアイデアがわかなかった。ツール作成のワークショップを行なうにはもう少し回数を増やせばよかった。

3. 事業の構想がチラシから読み取りにくかった。説明会に参加した人にはよく伝えることができたので、説明会の回数を増やすと良かった。

4. 企業への働きかけが難しかった。ろうきんの皆さんにも参加してほしいかった。

途中経過を報告して協力を得るなどすればよかった。

今回の事業は、団体の活動や、地域社会にどのような成果・効果がありましたか

- 1 多様な人権問題の存在を知ってもらえた。
児童虐待・DV・母子家庭の問題・いじめ・不登校・障害などについて学習を深めた。
- 2 団体相互の交流が進み、各団体の相談スキルが向上する。
関係した団体のほとんどが、社会的にハンディを持っているといわれる人たちの支援を行なっている。普段はそれぞれの分野での活動に忙しく過ごしているが、今回の事業によって、他への視野が開けた。ハンディの種類によって、お互い未知のこともあることへの認識が高まった。相談に訪れる人は、悩みの種類が単一ではないことが多いので、今回の事業実施によって、相談者への思いやりや想像力が高まり、より良い相談事業につなげる可能性が広がった。
- 3 他団体との協働・連携が進む。
泉子どもの日フェスティバルに参加し、お互いにブースを訪れて活動を聞くことで、相互の活動を理解することができた。さらに今後の連携について、話し合われたこともあった。
- 4 人権問題への理解者が増え、継続してボランティアとして参加してもらう可能性が高まる。
すぐボランティアとして活動したいという人は多くはなかったが、数人は紹介した団体のボランティアとして登録してくれた。今後、様々な活動に参加の声かけをしていきたい。
- 5 参加者の自主的な行動が期待でき、地域活動などに生かしてもらえる。
すでに、他団体で活動している人も多かったが、例えば、子どもの見守りボランティアなどの際に、子どもへの性虐待や、暴力防止の視点を獲得してもらえたことなど、一面的な見方を修正してもらうことができたのは収穫だった
- 6 将来の施策化の提言に向けて、行政・司法・医療機関等各方面に働きかけるツールが作成される。
子どもの日フェスティバルに配布したカードを元に、子どもに「権利」を教えるツールの基礎ができたので、今後完成版を作成したい。
報告書はどちらかという行政や企業向きのものになった。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか

ボランティア活動は、定年になって初めて取り組むというのは、情報入手からしても、実際に参加するにしてもハードルが高くなってしまいますので、現職の時代から取り組んでいることが望ましい。そのためには、企業も、ボランティアやNPOについての理解を促進するために社員向けの講座を開いたり、社員が募金活動をしたりするなどの努力をして欲しいと思う。

企業への働きかけの窓口がとても狭いことを実感した。自分達の活動をより多くの企業人に知ってもらうための広報を行なうことが必要と思われた。

団塊の世代の迷いや不安を感じる事ができたので、さらにプログラム開発などに取り組む必要を感じた。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか
また、その際に必要なものは何ですか

同様の事業を継続し、多くの人の参加を広げていく。
企業などに社会貢献プログラムとして提供する。

今回助成申請時には、人件費を計上していたが、自己資金の不足で人件費を支払うことができず、ボランティアとして少ない人数で事業を実施せざるを得なかった。そのため、規模が縮小されてしまったきらいがある。今後の展開には自己資金の確保が必要であり、専任の事務局をおく必要がある。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
ろうきん地域貢献ファンド助成金	300,000	助成金
団体より支出	132,534	会員よりの寄附
合計	432,534	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
謝金	50,000	報告書原稿作成謝金
印刷費	147,000	印刷機使用料(チラシ1500枚分、広報カード3000枚、報告書11000枚分)
郵送費	118,770	郵送用切手代
交通費	56,090	講師交通費・事務連絡交通費 運搬時駐車料金
消耗品費	60,674	事務用品代(パソコンインク・ファイル・封筒代など) 紙代
合計	432,534	

<ろうきん>へのメッセージをどうぞ。

いつもは、社会的に「弱者」といわれる人たちを対象に活動している団体ですが、今回企業の人や、たくさんボランティアをしている人たちを対象に講座を実施しました。一見何不自由なく過ごしているそのような人たちに中に、漠然とした不安や日常に対する不満があることを痛感しました。

忙しく暮らしている中で、今回の事業で出会ったことが、その人の今後の生き方に影響を与えるような事業になったのではないかと思います。

「一人一人がその人らしく生きられる社会づくり」。多分「ろうきん」の皆様もそのような思いでお仕事をしておられるのではないのでしょうか。

貴重なお金を私たちの活動へのチャレンジに使わせていただき、ありがとうございました。この経験を生かして、さらにステップアップしていきたいと思っております。今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。